今月の川柳

本年もどうぞよろしく
午の春

鍋底山横から、東の空を美しく染めて昇る初日は、清新で新年の希望の象徴である。若者よ、初日の出のように、明日に向かって、羽ばたいてほしい。

八女川柳会　安達　昇

街かど gallery

立花町谷川
井手　伸子

昨夏私は体調を崩して回復も捗々しくなく、筆もとれずぼんやりと無為な日を送っておりました。それでもお稽古日が近づくと慌てて色紙や短冊、はがき等の小品にとどめて筆をとりました。月二回の教室にわざわざ足を運んで下さる中島美代子先生に、欠席するのは申し訳ないと、度々用具も持参せずに出席しました。先生の筆の運び、筆遣い、墨の濃淡等その時は理解出来たつもりでも、いざ自分が筆をとると中々思う様に出来ません。また精魂込めた作品に墨を落し、落款の押し違えや水分の過多で数々の失敗も重ねました。それでも懲りずにこれ迄続けてこれたのは、偏に先生のご指導とお優しいお人柄、更には教室の皆さんとの出会いに他ならないと思っております。

川の情景　⑤　鯉（こい）

鯉は、縁起の良い魚として昔から重宝がられ、祝事には欠かすことのできない、多くの人達に慣れ親しまれている魚です。それ故に研究も進み、真鯉・緋鯉、観賞魚（錦鯉）、食用鯉等に分類されます。鯉の寿命は人間より相当長命で、岐阜の「花子さん」とペットネームのついた緋鯉は、217才（鱗の年輪を光学顕微鏡で調査・1964年）であり、100才以上の鯉は数多くいると、鯉の研究家の天野政之氏の著書「錦鯉大観」に記述されています。又、鯉の放流で有名な島根県の津和野では、戦国時代のお殿様がいざ合戦時の非常用の食糧にと飼育を奨励されたのが始まりで、現在でも約十万尾の鯉が道路脇の流水に悠々と泳ぎ、観光の目玉になっていると案内されています。

さて、矢部川の鯉について記しますが、主な棲処（すみか）は、日向神ダムや流れのゆるい渕の深みを好んで生息しています。流域では昔からタンパク源として、「鯉こく」や「鯉のあらい」等、川魚料理の王道として食されております。

しかし、平成15年～16年にかけ一部の河川・湖沼に、鯉ヘルペス（KHV）という鯉特有の伝染病が発症・蔓延したので、鯉の移動が全面的に禁止されたのを機に、風評被害を受けておりましたが、矢部川ではKHVに汚染された鯉の報告は一件もありません。矢部川の鯉は安全・安心です。どうぞ「清流矢部川の鯉」を召し上って下さい。

黒木町　**内藤　洋臣**

カレーとハンバーグの店　**ジャカカリー**

八女市本町1-206
☎0943-24-3525

豊富なメニューと選べる楽しさいっぱいで大人気。人気の秘密は、カレーソースが甘口から辛口、そして子供カレーまでお好みで選べること。特に人気なのがレディースカリーセットで、甘口・辛口・グリーンカリーの中から選べ小ライス，ナン、サラダ、フリードリンクバー、デザートまで付いて大満足、男性には店舗仕込みのカツカリーやハンバーグカリーが人気。また、味噌汁、ご飯の付いた手仕込みハンバーグ定食やロースカツ定食もあり年配の方やお子様に人気、寒い冬には熱々焼カリーがお勧め!!一度は立ち寄りたい店である。

新年は４日から営業致します。

写真はレディース焼カリー

サービスクーポン
この券を持参の方に
飲食料金の５％割引
平成26年1月31日迄有効
ジャカカリー

ふるさとの伝統行事 ①

新春初詣り　轟虚空蔵神社大祭
1月13日（祝）上陽町轟

虚空蔵は無限の知恵と慈悲を持つ菩薩の意味で、広く「こくぞうさん」と呼ばれ、知恵をもたらし商売繁盛にご利益があるとして親しまれています。中でも轟虚空蔵神社のお祭りは轟集落の皆さんの力によって長く引き継がれ、1月13日の例祭日には露天も並び多くの参詣者で賑わいます。

商売繁盛・参詣の際福銭を預って持ち帰り、次にお詣りする時に、お礼として倍にして返す慣わしがあります。

智恵詣り（十三参り）・数え年13歳を迎えた少年少女が大人になったことに感謝し、将来の福徳と英知を授かるように虚空蔵菩薩に参詣するならわしで智恵詣り、知恵もらいとも言われます。13歳という年齢が元服の時期と合致するための一種の通過儀礼として伝承されました。帰りは鳥居をくぐるまでうしろを振り返らずまっすぐ境内を後にしないとせっかく授かった知恵をかえさなければならないといういわれがあります。（写真・解説は八女市上陽町HP観光案内参考）轟虚空蔵神社は八女市街より上陽町大瀬信号を左折約5分。お尋ねは0943-54-2301木下さん

矢部川源流・杣の里の四季　㉗

ホトケノザ(仏の座)[シソ科]

ホトケノザは，早春の人里に咲く越年草。秋に芽ばえ、春に花を咲かせて実を結ぶ。こういった生活形態の植物を越年草と呼ぶ。写真は1月、雪深い矢部村の晴れた日に、溶けた雪の穴から顔を出したホトケノザ。

和名は、葉の形が、仏像の蓮華座に似ていることからついた名。春の七草のホトケノザはキク科の別の種類を指しているといわれている。そちらは、普通、コオニタビラコという和名が使われる。

（黒木町）
松尾　重根